

2005年7月14日
 昭和電線電纜株式会社
 (コード番号 5805)

2005年 昭和電線グループの環境報告

昭和電線電纜株式会社(取締役社長 富井俊夫)は、昭和電線グループの2004年度の環境保全活動ならびに社会への取り組みをとりまとめました。

今回の報告では、コンプライアンスの体制、情報セキュリティに関する認証(ISMS)取得、個人情報保護のガイドライン設定および社員教育の充実など、企業に求められるCSR(企業の社会的責任)の取り組みについての報告を充実させました。

また、中期経営計画の重点施策として掲げる環境配慮型製品の開発、中国市場での事業強化を推進していることから、絶縁油を必要としないダイレクトモールド機器用ブッシングなどの開発製品や中国の生産拠点に対する環境管理支援活動を紹介しています。

【主なトピックス】

1. 社会的な取り組み

お客様の情報資産をお預かりする情報・通信システムの事業では、子会社の株式会社アクシオと連携し、本年3月29日にISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証を取得しました。

この他にもコンプライアンス体制の充実、人材教育のリニューアル、地域社会との連携などで一定の成果をあげています。

2. 環境への取り組み

廃棄物の最終処分率ゼロ(ゼロエミッション)については、目標より1年前倒しで、昭和電線単体の全事業所において達成しました。

一方、有害化学物質の削減など一部で2004年度のマイルストーンをクリアできなかった項目もありましたが、到達目標の最終年度にあたる2005年度には目標必達に向けて取り組んでいきます。

3. 環境会計

2004年度の環境会計は、銅価格が上昇したため、「銅の回収、再資源化より得られた収入額」が前年度930百万円から1,548百万円と増加し、改善しました。

グループ全体 (単位:百万円)	2004年度		2003年度	
	投資額	費用	投資額	費用
環境保全コスト	412	737	167	848
経済効果	1,688		1,109	

以上

この件に関するお問合せは、下記宛にお願いします。

総務部 総務・広報グループ 03-5532-1911